

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 湯と里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県伊豆の国市長岡953-1
記入者名 (管理者)	北村 みゆき
記入日	平成 20 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様の個性に合わせ、住み慣れた環境の中で、自分らしく暮らす支援を日々探求している。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目につくところに理念を掲示し、常に意識して判断し、行動している。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開設当初に地域の人々に対しては内覧会にて説明し、ご家族には契約時に理念及び運営方針について説明し、理解を得ている。	○	ご家族や地域の方々と交流する機会を増やしていき、グループホームのケアのあり方、役割や課題を地域へ発信していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様と近隣を散歩し、あいさつや会話をすることもありますが、日常的な付き合いといったところまでは至っていない。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の方や近隣の施設より情報を聞き、お祭りなどのイベントに参加し、交流している。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方や一人暮らしの高齢者と出会う機会があると、介護について相談を受けたり、気軽に立ち寄っていただくよう話しをしている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めて評価を受けるにあたり、評価項目が日常の中で気付かない点を気付き、より良いサービスが提供できるよう活用したい。	○	自己評価、外部評価を生かして、改善すべきところは方法を考えて、サービスの向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を職員全体に把握してもらい、サービスの向上に役立てたい為に職員の全体会議で報告し、それを検討している。	○	地域の方、ご家族の参加が少ないので、参加が増えるよう働きかけていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所からの相談や以来は積極的に対応し、現在も情報交換や相談で足を運び、連携が保てるようにしている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者様があり、今後も必要な方には積極的に活用を支援していきたい。	○	ホーム内での研修の機会を作り。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう常に職員全員で連携体制をとり、教育、注意をしている。	○	高齢者虐待防止関連法について勉強会の機会をつくり、より理解を高められるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、相談に耳を傾け、説明を行い理解、納得を得よう努力している。また、文書に明示され同意の押印をいただいている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の不満、苦情には常に受け付け、解決にむけて意見、要望などがないか聞き取りをし、職員に伝達し、改善すべきところはその都度話し合っている。	○	外部者へ表せる機会がないため、方法を検討していき、実施に向けて取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「湯と里だより」を発行し、最近の様子を報告している。また電話連絡や面会時に個々に報告もしている。金銭管理については、毎月ご本人出納帳を提示し、領収書をご家族へお渡ししている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付先を掲示しており、常に受け付けている。ご家族と話しをする機会や運営推進会議でも意見、要望などがないか聞き取りをしており、そこであがったものに関しては、職員に伝達し改善すべきところは話し合っている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換できる機会をつくっている。随時、職員の意見や提案を聞き、とり入れている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応できるように、調整を行えている。大幅な人員配置の変更まではしていない。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ異動はないが、離職に関しては、環境の変化によるダメージがないよう理解していただけるように説明している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修については、掲示したり呼びかけを行い参加を促している。管理者や一部の職員については研修ができていると思うが、勤務の都合上、研修を受ける機会が少ない。</p>	○	<p>今後も、法人内の研修は進んで参加し、外部研修受講者は学んできたことを職員全員に報告できるようにしていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との交流は特に設けていない</p>	○	<p>他事業所との交流の機会を設けたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士、悩みや相談があれば互いに耳を傾け協力し合い、また会議の中で、働きやすい職場環境をつくるために要望などについて提案している。</p>	○	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の状況を把握し、定期的に査定評価を行い、給与、賞与、役割を決めており、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人の話をゆっくり傾聴し、受け止める姿勢で対応しているので、信頼関係ができている。</p>	○	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族からの相談には真摯に受け止め、信頼関係の構築に努めている。</p>	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、ご本人にとってもっとも良い状況を見極め、入居まで至らないケースなどは、他のサービスの紹介をしている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族からの早急の入居申し入れが多く、ご本人が納得の上での入居は少ない。当初はご本人に寄り添い職員全員が意識して接する機会を増やし、安心して過ごしていただけるよう努力している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が出来る事に関しては職員と一緒にあって、掃除、洗濯物干し洗濯物たたみ、買い物、食事の仕度や後片付けをしたり、リビングでゆっくり会話を楽しんで過ごしたり、身近な関係作りが出来ている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密にし、家族の協力が必要なところは協力していただいている。	○	ご家族と関わる機会がまだまだ少ないと思われる。関わる機会をたくさんつくり、より良い関係作りを築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族がより良い関係が築いていけるように、情報を基に、支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に依頼し、正月の里帰り、お墓参りへの外出がある。できるだけご本人の希望が実現できるようにしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士が良い関係でいられるように、常に配慮している。気の合う方同士が自然とくつろげる場面が多くみられる。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院や他施設へ状況を時々確認している。場合によっては訪問して近況を伺っている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を、言動や行動から把握するように努めているが、困難な場合はご本人の安全を考慮し、職員間で判断し、検討実施に努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料やご本人の日常の会話からも、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の介護記録やチェック表をつけ、日々の観察を行っている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、会議を行い、課題とケアのあり方について職員全員で話し合い、介護計画に活かしている。	○	ご家族に意見をたくさんもらい、それを介護計画に反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の見直しは後回しになっているが、現場では状況の変化に即応している。	○	計画的に介護計画の見直しができるように計画表を作成し、実施できるようにしたい。また状況変化があった場合には、その都度、現状に合った介護計画を作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、特に注意する点などは業務日誌に記録し情報を共有している。	○	生活記録については、記録量が少ないことがある。記録の記入方法を検討し実施していきたい。モニタリングに活かしたり、介助方法のヒントにすることがまだできていない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望にできるだけ応えられるように努めている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の新聞や広報からの情報は得て活かしている。	○	地域との連携が充実し協働できるよう努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	交流のあるケアマネジャーやサービス事業者とは、すぐに相談できるが、今までは他のサービスを利用する必要があるケースはなかった。	○	今後も柔軟に対応できるように検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターからの問い合わせ、相談には応じてアドバイスなどもいただいている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を第一にし、適切で安心できる医療体制をとっている。病状に合った医療が受けられるように紹介状依頼の手配をしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に診察受診をして、その時に日々の様子や変化を主治医に報告、相談をし指示をいただき、統一して関わりをもっている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常のケアについて気軽に相談に応じてくれる看護職がいて、入居者様一人々についてアドバイスがある。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人やご家族の希望を受け入れ、安心して入院生活ができるように支援し、医療機関と治療内容や状態などを訪問し説明を受けて連携をとっている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化や終末期を意識するような入居者がいないので、具体的な方針については話し合っていない。	○	ターミナルまで見るにあたっての方針の共有が十分でないため、これから話し合いを充実させていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、重度化や終末期を意識するような入居者がいないので、検討や準備は行っていない。	○	隣接された病院の主治医と常時連絡がとれるので、今後の変化に備えての主治医からの指導に慎重に検討準備したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	できるだけ情報交換を行い、ホームにいる時と同様の支援が受けられるようにしている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴れ合いから、言葉かけや対応に失礼がないよう、特に気をつけている。個人記録等は、他者の目につかない所に保管している。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の能力に合わせ、ご本人の意思を必ず確認し、自己決定し納得して過ごせるよう支援している。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせるよう、対応できるよう心がけているが、職員の業務内容などの関係で入浴、外出など職員側に合わせてもらうこともある。	○ 常にご本人の希望、ペースに添っているのか、振り返りながら行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回、美容院の訪来があり、希望に応じてカット、パーマ、色染めをしていただいている。身だしなみやおしゃれについては、ご本人の好みに合わせて自由に行っている。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けができる方は、職員と一緒にいる。レクリエーションの一環として、定期的におやつの際に一人ひとり好きなものを食べていただいている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やたばこを飲む方はいらっしゃらないが、今後希望があれば楽しめるよう支援していく方針である。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、失禁を減らせるようにタイミングをみてトイレ誘導したり、さりげなく介助するように心がけている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を問わず、入居者様の希望に応じて行っている。入浴を好まない入居者様については、職員の声かけにて入浴していただいている。現在は一人夜勤体制のため、夜間の入浴は行っていない。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員は、入居者様が日中できる限り活動して、夜間良眠できるように、生活習慣や生活リズムを把握するように努めている。また、日中においても入居者様の希望や状況に応じて、休息や睡眠をとってもらっている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴、趣味、楽しみごとを把握し、本人のADLに応じた役割をお願いするように努めている。	○	決まった利用者ばかりでなく状況に応じて、あまり意欲的でない入居者様にも声かけをし、意欲をもって生活していただけるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方には、小銭程度を財布に入れてもらっている。ご本人お小遣い金は、事務所にて預っていて必要に応じてスタッフと一緒に小遣いを持ち、買い物に出掛けている。	○	お金の事で利用者同士又は職員でトラブルにならないように、ご家族には入居時に説明し、必要以上のお金を渡さないようお願いしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物等、職員と一緒にしている。入居者様の希望に出来るだけ添えるよう支援している。	○	季節を感じていただけるような外出や行事を継続して行い、支援していきたい。あまり外出したくない入居者様の楽しみを考え、外出していただけるようなプランを立てていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	なるべく全員で外出する事を心がけ、行事予定を立て、月に1回程度外出を実施している。また、日常の会話の中に出てくる思い出の場所などを把握しておき、予定に組み入れたりしている。	○	ご家族の方にも協力していただき、入居者様と一緒に外出、外泊を促していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方にはホーム内の電話を使用していただく、電話を掛けたいが掛けるのが困難な方は、職員が代わりに電話を掛け、本人に受話器を渡し、話していただいている。手紙のやりとりもスムーズに行っている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会していただけるようにし、面会時にはご本人の居室やリビングで職員がお茶を出し、ゆっくりくつろいでいただけるようにしている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束の内容と、その弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はかけていないが、帰宅願望があり職員の制止を振り切って外出してしまう入居者様がいるので、安全確保の為、玄関、非常口の鍵をかけている。	○	鍵をかけないケアをするにはどうしたらいいかを職員間で話し合い、実践していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	15分おきの居所チェック表があり、入居者様がどこで、何をしているのかを把握している。	○	今後も、入居者様がどこで、何をしているのかを常に目が行き届くよう徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理ができない入居者様の大事な物などは、職員が管理、保管している。注意の必要な物品(包丁、はさみ等)については、外から見えない場所やわかりにくい場所などに保管している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットが起こった場合には、生活記録に記入し、情報を共有し、事故を未然に防ぐように努めている。事故が起こった場合には、事故報告書に記入し、同じ事故が起こらぬ様、改善に努めている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルがあり、状況に応じて動いている。	○	全職員、救命救急の講習に参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、防災訓練を行っている。運営推進会議を利用して、地域の方の協力もお願いしている。	○	年2回、防災訓練を行ってほしい。災害時は、地域の方々の協力が必要になってくるので、まずはホームの存在を地域の方々に知っていただくことから始めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、入居時にご家族等に説明し、理解していただいている。	○	リスクにとらわれすぎて、入居者様のできる事まで奪ってしまうことのないよう注意していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや健康観察で、体調の変化や異常があった場合のために、マニュアルを作成し、早期発見、早期治療に結びつけるように努めている。	○	入居者様の小さな変化でも気付き、情報を共有し、対応していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を入居者様別に管理しており、服薬の変更、追加等を日報に記入し、全職員に伝わるようにしている。	○	入居者様一人ひとりが何を服用しているのか、できる限り把握できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。便秘気味の方は特に注意し、便通がよくなるよう腹部マッサージや朝食後に牛乳又はヨーグルトを摂取していただいている。	○	なるべく服薬に頼らないように工夫していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを働きかけている。困難な方などは個別に介助している。義歯の方は、夕食後にスタッフが預り洗浄、除菌を行っている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量をチェック表に記入している。その方の状態に応じて、個別に対応している。季節によって暖かいもの冷たいもの、個人の好みを配慮して摂取していただいている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出帰宅時、食前、トイレ使用後には手洗いを徹底し、トイレ内部の清掃も毎日行っている。インフルエンザの予防接種の勧めを行っている。	○	感染予防の知識を職員全員が勉強し理解できるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板、流し台等の消毒を実施し、食器類は定期的に漂白、殺菌している。	○	今後も、常に清潔に保ってきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階にグループホームがあるので、1階に貼り紙をし、わかりやすい様にしている。玄関周りの整理整頓に心がけ、清潔に保っている。	○	玄関外にもくつ箱を設置し、訪問者が入りやすい環境にしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎朝、入居者様と職員と一緒に掃除しており、清潔に保っている。リビングには天窓を設置し、明るい光を取り込んでいる。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、テレビを見たり、おしゃべりしたりできる空間を作っている。	○	共有空間にも独りになれる空間を作れるよう、検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、今まで自宅などで使っていたなじみのある物をホームへ持ち込んでもらうなど、入居者様が安心して暮らしていただけるような環境づくりを心がけている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンの温度調節をこまめに行っている。毎朝の清掃時に窓を開け、換気にも注意している。	○	場所や時間帯によって温度差があるので、注意していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。各居室には、洗面台が設置されている。トイレ、廊下等には手すりが設置されており、車イスや、歩行器を使う事が多かった方の歩行の機会が増えADLの向上がみられる。	○	今後も、安全にその人らしい生活が送れるよう工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室については、一人ひとり表札をつけ、わかりやすいようにしている。トイレについては、ホーム内に4カ所あり、場所の表示をしている。	○	入居者様の行動をみて、その都度必要な物があれば設置していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	グループホーム外の庭に家庭菜園を作り、野菜作りや収穫を楽しんでいる。また、法人敷地内に足湯があり、散歩をしながら足湯も楽しめる。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「湯と里（ゆとり）」というホームの名前どおり、ゆっくり（穏やかに、安心して）と温泉で身体も心も癒やしていただきながら、ご自分の暮らし方を大切にして、過ごしやすいホームを作っていきたい。